助成番号 043376	6 － 2

研 究 成 果 報 告 書

（国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿）

研究テーマ（和文） AB	環境政策において行政と利害関係者間の知識共有を支援する役割に関する研究				
研究テーマ（欧文） AZ	The Supporting Role of Knowledge-Sharing Between Administrations and Stakeholders on Environmental Policy				
研究代表者	カタカナ CC	姓） スエナガ	名） サトシ	研究期間 B	2004 ～ 2005年
	漢字 CB	末永	聡	報告年度 YR	2006年
	ローマ字 CZ	Suenaga	Satoshi	研究機関名	北陸先端科学技術大学院大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科･助手				

概要 EA （600 字～800 字程度にまとめてください。）

本研究では、環境政策における行政と利害関係者間の知識共有を支援する役割として、各都道府県に配置されている農業･水産業･林業の改良普及員（研究開始当時）に注目し、その実態を明らかにするとともに、将来的な活動の可能性について独自の概念である知識通訳の視点から考察した。

平成 17 年 4 月より行政改革の一環として改良普及員制度にも変更が加えられ、名称も「改良普及員」から「普及指導員」へと変わることになった。本研究では、制度変更が実施される直前の平成 17 年 3 月に、農業･水産業･林業の改良普及員を対象にアンケート調査を実施した。農業および林業は北陸 3 県（福井･石川･富山）を、水産業は全国を対象にそれぞれ行なった。

その結果、農業･水産業･林業ともに改良普及員は普及対象である各地域の農業従事者･漁業従事者･林業従事者との間に、定期的な訪問に基づく関係性を構築しており、改良普及員としての経験年数に関わらず対話に重きを置いて普及対象と接していることがわかった。また、改良普及員が自らが行政と利害関係者である普及対象間の橋渡し役を担っていることを認識した上で活動しており、情報や知識の伝達方法についても、所属する都道府県の試験研究機関や行政の場合と普及対象の場合とではその形態を変化させていることがわかった。特に普及対象に対しては専門用語等をわかりやすい言葉に置き換えたり、図表を活用するなどの理解を促すための様々な工夫を行なっていた。これは知識通訳を実践する役割である知識通訳者の機能に他ならない。

本研究によって、改良普及員（現普及指導員）が行政と利害関係者である普及対象との間の橋渡し役を自ら認識した上で担っており、その機能は知識通訳者の役割とも共通することが明らかになった。この結果は、将来的に改良普及員（現普及指導員）が農林水産業と密接に関わっている環境政策においても、日常的な交流を基盤とした信頼関係によって行政と利害関係者間の橋渡し役を担うことが可能であり、両者の合意形成を支援することで政策の推進力となりうることが示唆された。

キーワード FA	環境政策	合意形成	改良普及員	知識通訳

（以下は記入しないでください。）

助成財団ｺｰﾄﾞ TA						研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC						シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）

雑誌	論文標題GB	農業における普及職員の橋渡し的役割に関する研究　ー知識通訳の視点からー							
	著者名 GA	末永聡	雑誌名 GC	農業普及研究					
	ページ GF	85～94	発行年 GE	2	0	0	6	巻号 GD	第11巻第1号
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	

欧文概要 EZ

The purpose of this study is to obtain a feasible suggestion about the bridging role of agricultural/fisheries/forestry extension workers belonging to prefectural government on environmental policy in the future. This study implemented the questionnaire survey intended for extension workers to clarify the current state of activities of extension workers at the end of 2004 fiscal year that before the extension system's being changed, and also executed to research established studies. Moreover, this study applied the original concept of "Knowledge interpretation" as the viewpoint to analyze.

In conclusion, this study found that extension workers constructed relationships with stakeholders by dialogues in ordinary visiting. Besides, they not only facilitated knowledge-sharing by interpreted technical words into simple words but also by using self-making figures to be understood easily as knowledge interpreters. Therefore, this study suggested that it was possible to support consensus-building between administrations and stakeholders by extension workers in future environmental policy process.